



次年度へ向けた1年進路学習 ～未来を信じ充実した高校生活を！～

今日2月26日(金)まで、1,2年生は3学期の期末考査でした。1時間目で最期の試験を終えた1年生は、そのあとお昼まで進路学習を行いました。1年生は、来る次年度に向けコース(進学・地域・福祉)選択も済ませました。あとは、どれだけ自分の未来を現実のものにとらえ、目標を持ち、日々の学校生活を有意義に過ごすかだと思います。



さてそんな1年生に向けて、就職志望者向けには資格・検定の話と模擬試験が、進学志望者には2年の春～夏に1度は行ってみたいオープンキャンパスの話と、分野別の説明会が用意されていました。

私がお邪魔した就職志望者向けの会場では、「ビジネス文章実務検定」「社会人常識マナー検定」「ビジネスコミュニケーション検定」の説明をしていました。どれも将来ばかりか現在の学校生活で直接役立つ能力ばかりです。

1年生の皆さんは、講師の先生のお話を真剣に聞き入っていました。進路を意識することは、日々の生活を見直し、改善していくことにほかなりません。充実した高校生活を送った人には、良い未来がおのずと後からついてきます。1年生の皆さんのこれからに期待しています。



感謝を含めたサプライズ ～3年生の粋なはからい～

この日は3年生の登校日。担任の先生のお誕生日が近いと気がついた生徒たちは、早朝から行動を起こしていました。教室を飾りつけ、担任の先生がSHRに現れる瞬間を待ち構えています。

S先生が現れると、皆は一斉にクラッカーを鳴らし、『お誕生日おめでとうございます!』と祝福の言葉を投げかけました。

驚きつつも喜ぶS先生。『泣きたいのを我慢した』そうです。これはS先生が3年間で築き上げた、生徒との信頼関係の賜物です。



困ったお話(その27) (そぞろ神に憑かれて…)

最近、ある人物のことが脳裏を離れず困っていた。その人物は寡黙で決して語らないので本名と出自は謎だ。突如幕末の伊那谷に現れ、それ以来、行き倒れになるまで家々を回り俳句や書を書き残した。現在、彼の書いた流麗な書が、古い家や神社などに残されている。無類の酒好きで、数々の超俗のエピソードが伝えられている。死後、芥川龍之介が彼の書を絶賛し、種田山頭火は彼の俳句と漂泊人生を愛した。

彼は本名を名乗らなかったが、俳号の「井月(せいげつ)」と呼ばれていた。

そんなわけでお休みの日、そぞろ神に憑かれた私は、いてもたってもいられず彼のお墓を探す旅に出た。人に訊いても「わからない」と言われたが、何のことはないGoogle地図に出ていた。手を合わせ帰路についた。木曾山脈の峰々が美しく、良い1日だった。心が晴れた。



代表句:「旅人の我も数なり花ざかり」「落ち栗の座を定めるや窪だまり」